

窓辺

新聞が好き

おだぎともこ
小田木朝子

私は毎朝読まないし落ち着かないほど、新聞が好きです（決して頼まれて書いているわけではありません）。当欄をご覧の方は、

きつと共感してくれる方が多いのではないのでしょうか。

「とても刺激的で、泣けて、超役に立つ実用情報紙」。そんな言い換えを惜しみなくできます。

今は多くの人がスマホを持ち、わずかな時間でたくさん情報が入ります。SNSはおすすぬ情報を手に表示してくれる

し、知りたいことを検索すれば、あっという間に抱えきれない情報量。もはや「これ以上は勘弁して」という状態の時すらあります。

では、あえて新聞を読むのは何のためか。自分が認識していない新たな入心Vに出合うためです。必要な時事情報を得られることももちろん有効ですが、私はそれ以上の価値を感じています。

ビジネスの新トレンドとその担い手のエピソード。個性的な経営者や地域人の人生観。苦難を乗り越

えたアスリートのストーリー。知らなかった社会問題とその解決に取り組む人や団体。こうした情報が、面白くてたまりません。

日常に活きる新しい視点を持つ、感動して力もわき、今の自分の悩みに響くヒントを得ることができます。「まったく偶然に、求めていた情報に出合った」という機会を一番簡単に提供してくれるのが、私にとっての新聞なのです。

最近の収穫はこの言葉。「無駄なことは何もない。無駄にする人がいるだけだ」。その時々で自分にとって運命的な、良い情報にきつと出合えます。

（育勉普及協会理事）